

## 令和元年度「テレワーク活用ネットワーク会議」第2回会議の議事概要

日時 令和2年3月11日（水）13：30～15：00

場所 TOKUSHIMA AWorking AI（トクシマ アワーキング アイ）徳島県庁10階

### 出席委員（6名）

副会長 米澤 和美 徳島県社会保険労務士会会長  
委員 川原 雅好 株式会社エル・イズ・ビー  
委員 清瀬 由香 特定非営利活動法人チルドリン徳島  
委員 竹内 真由美 フリーランス  
委員 田澤 由利 株式会社テレワークマネジメント代表取締役  
委員 葛籠 枝美 株式会社テレコメディア徳島支社人事部部長

※猪子会長、佐々木委員は欠席。

### 田澤委員

- ・新型コロナウイルスの感染拡大は、企業にテレワークの必要性を実感していただくというのが重要なポイントではないかなと。本当にやったらテレワークしてなかった会社もなんとかできる。非常時ですから、紙を持って帰って、課長と話す場があればできるはずだと、具体的に話してやってもらう必要があるんじゃないかなと思っています。

### 竹内委員

- ・仮設クラウドオフィスは、すごくいいなと思っている。ズームができなくても、ラインでも、一つの会議スペースを設けるということで仮設のクラウドオフィスができるのであれば、中小企業にも導入しやすいのではないかな。

### 川原委員

- ・会社は先週、今週の2週間は、全員、原則リモートでとなっていて、妻も会社もリモート推奨となったので、昨日、一昨日とずっと在宅で仕事をしている。家にあまり機材のない人は、出社可となっている。

### 葛籠委員

- ・新型コロナウイルスの影響で出張が全部取りやめになって、クライアントも徳島に来る出張が取りやめになって、今日のようなズームの会議とか、今、テレワークが未来の仕事じゃない状況に来ているという認識を、地方でもしているんじゃないかと思う。全てをテレワークに変えるというのは、ハードルが高いかもしれないが、選択できる状況を作るということは、次のBCPにおいても重要。

#### 清瀬委員

- ・ コロナウイルスが出てから、特に中小企業、零細企業では、家でできる仕事と、そうではない仕事があるときに、オンラインで話をする文化がないという心の壁、心理的に安全ではないところで話ができないというのを感じている。とはいえ、一朝一夕でできるわけではないので、トライしながらここは不安だったから言いにくかったとかを言ってもらわないと難しい部分と、仕組みと文化を経営者側がやりましょうかと言うところがないと。
- ・ 阿南市の方からお預かりしているテレワーク広場は、全員閉めてしまって、全員がオンラインで相談窓口を、ズームのアカウントをそのまま提供することで、引き続き用務としては止まっていない状態でやっている。

#### 米澤委員

- ・ 今日ぐらいから相談が増えてきた。例えば、学童さんの保育士さんの方も、学童に子供が集められている状況で、たくさんいて、そこで働くのが怖いという状況であるとか、スポーツをする所であるとか、休業せざる得ないといった相談がある。厚生労働省が出しているQ&Aの中でもテレワークに関してはここに相談してくださいというのがあって、徳島県でも、私ども社労士会で、働き方改革推進支援センターとして事業をやっている。こういう機会というの、今後企業BCPと言う観点からも特に必要になってくると思う。

#### 田澤委員

- ・ 今来ているので一番多い取材は、コロナの件で急に在宅勤務をしなければいけなくなった場合に、企業が気をつけること、心がけることはなんですかということ。またやってみただけ、こういう問題がでてくる、例えば、椅子がどう、部屋を見られる会議がつらい、できない仕事がある人はテレワークをしなくていいのか、といった具体的な困ったことに回答して欲しいといったことや、コロナが落ち着いた後、どうなるんですか、盛り上がったけど、下がって、またここから良くなるんですかといった質問が多い。

(令和2年度事業について)

- ・ 今までと同じことをしてはだめという意識が必要。もちろん、教える人を増やす、テレワークが詳しく知る人を増やすというのも大事だが、例えば事業継続の事業をされるのであれば、予行演習をやりましょう、今日は1日出社しないでください。そういうコンサルティングの方がもっとリアルにいけるんじゃないかなと思う。まずはできることというのを伝えてあげないと、特に地方の中小企業はなかなか動かないんじゃないかなと思う。